

平成28年度

26th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入選作品

- 主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
- 後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局
- 協賛 富士フィルムイメージングシステムズ(株)、宮城県写真商業組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	暁に翔る	渡 邊 興 次	東松島市赤井
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	悠久の宇宙(ソラ)	狩 野 博 美	登米市迫町
金 賞 (栗原市長賞)	冬空の歓喜	鈴 木 宏 子	加美郡加美町
金 賞 (登米市長賞)	鬼ごっこ	豊 嶋 賢 洋	大崎市古川
銀 賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	躍 動	千 葉 精 一	仙台市宮城野区
銀 賞 (登米市観光物産協会会長賞)	華麗な舞	高 田 毅	福島県南相馬市
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	落 日	高 橋 達 也	石巻市鹿又
銅 賞 (河北新報社賞)	Lovely(ラブリー)	高 橋 明 男	登米市豊里町
銅 賞 (読売新聞東北総局長賞)	夏の夜の サンクチュアリ	菊 地 誠 一	石巻市貞山
銅 賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	朝の輝き	佐々木 幹 男	登米市迫町
銅 賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	家族写真「撮って!」	佐 藤 宣 雄	仙台市泉区
入 選	夏の歌人	足 利 義 信	岩手県一関市
入 選	栗原の美女軍団 ワッショイ!	原 田 雅 博	仙台市太白区
入 選	一 休 み	佐 藤 健 一	栗原市志波姫
入 選	朝日と共に	青 木 守	山形県南陽市
入 選	お 先 に	星 賢 二	登米市迫町
入 選	明日向かって	井上 のりひろ	奈良県北葛城市
入 選	寒 霧	高 橋 知 江	仙台市泉区
入 選	罫(ネグラ)に帰る	太 田 竹 一	石巻市相野谷
入 選	日 の 出	青 木 富士子	山形県南陽市

総 評

前回のコンテストが記念回だったこともあってか、今回の応募点数は少し減少してしまいました。それでも作品のレベルは変わらず力作が多数ありました。伊豆沼・内沼で一番のイベントでもある朝のマガンの飛翔はとても興味深い被写体です。色々な角度からとらえていて、幻想的であったり、迫力であったりつい見いてしまいました。また、今年は、日本各地で鳥インフルエンザが流行ったことで、給餌をするところが少なくなった影響か、伊豆沼・内沼一带に過去最高の数のハクチョウが飛来したそうです。コンテストでもハクチョウを主題とした作品が多く選ばれたのが特徴的でした。

応募される作品のプリントのクオリティは年々高くなっています。その中で、たまにレタッチをしすぎてしまったものがあります。せっかくの自然が持っている魅力をいじりすぎて違和感に感じる様な仕上げ方はもったいないです。伊豆沼・内沼一带の自然保護も意識しながら、自然の素の魅力をこれからもねらってみてください。

フォトコンテスト審査員 井村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。
日本写真芸術専門学校卒業。
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。
(社)日本写真家協会会員。チーター保護基金ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師など。
著書『大地の鼓動』『あざらしたまご』他。

ホームページ
(J's WORLD Nature Photographer Jun Imura's website)



【評】朝日をバックにマガンの群れが一齐に飛びたった瞬間の迫力が画面からあふれてきました。超望遠レンズで太陽を大きくとらえ、その前を飛ぶマガンにピントを合わせ、シャープにシルエットをとらえているのがお見事です。実際には太陽の前を通過するのはほんの一瞬ですが、シルエットが太陽に重なったところを逃さずにとらえたシャッターチャンスも良いです。また、太陽は白飛びしやすのですが、きれいな色に仕上げた露出の設定も高評価です。

金賞（栗原市長賞）
「冬空の歓喜」

鈴木 宏子

【評】朝日を背景に空一面を埋め尽くすマガンの飛び立ちの瞬間は、ひとシーズンで何回も無い様ですが、それを見事にとらえられています。画角を広くする程、隙間が出来やすいのですが、この作品は、広めの構図で無駄な隙間がなくマガンが画面を埋め尽くしています。また、シャッター速度を速く設定し、羽ばたきもブレることなくとらえているのも良かったです。



優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）「悠久の宇宙（ソラ）」 狩野 博美



【評】 静かな画面ですが、遥か彼方の宇宙を感じさせる作品です。天の川が伊豆沼上空のちょうど良い位置に配置された、星空の良いタイミングが計算されています。また、ホワイトバランスの調整でしょうか、青味に見せることでより夜のイメージが強調され、さらに神秘的な雰囲気演出されました。水面に映り込んだ星まできれいに描写されていて広い宇宙空間をよりイメージさせられます。

金賞（登米市長賞）「鬼ごっこ」

豊嶋 賢洋



【評】 ハクチョウが大きな翼を広げて追いかけてっこをしている姿をシャープにとらえ、躍動感があります。先頭のハクチョウにピントが合っていて、飛び散る飛沫もびたりと止まり、目を引きました。タイトルを見ると「鬼ごっこ」と記載されていて思わず微笑んでしまいました。必死な縄張り争いでもしているかと思ったのですが、実は仲良しなのかなと思えてきました。

銀賞

(栗原市観光物産協会
会長賞)

「躍 動」

千葉 精一

【評】朝霧に逆光で日が当たり、その中を飛び立つマガンの群れをとらえた幻想的な作品です。露出をやや暗めに設定することで、赤さが強調され、マガンのシルエットもくっきりと浮かび上がり、いっそうドラマチックな場面に見せられました。飛び上がる瞬間に水を蹴り上げた飛沫に射す逆光の光もきれいです。



銀賞

(登米市観光物産協会
会長賞)

「華麗な舞」

高田 毅

【評】2羽のハクチョウが舞う姿をスローシャッターで流し撮りをした、まさに華麗な舞です。背景が大きくぼかされて流れているのでハクチョウが浮き上がってきます。シャッターのタイミングも良く上下に大きく羽ばたく翼が美しいです。ハクチョウの顔がもう少し止められていたらさらに上位に入ったでしょう。



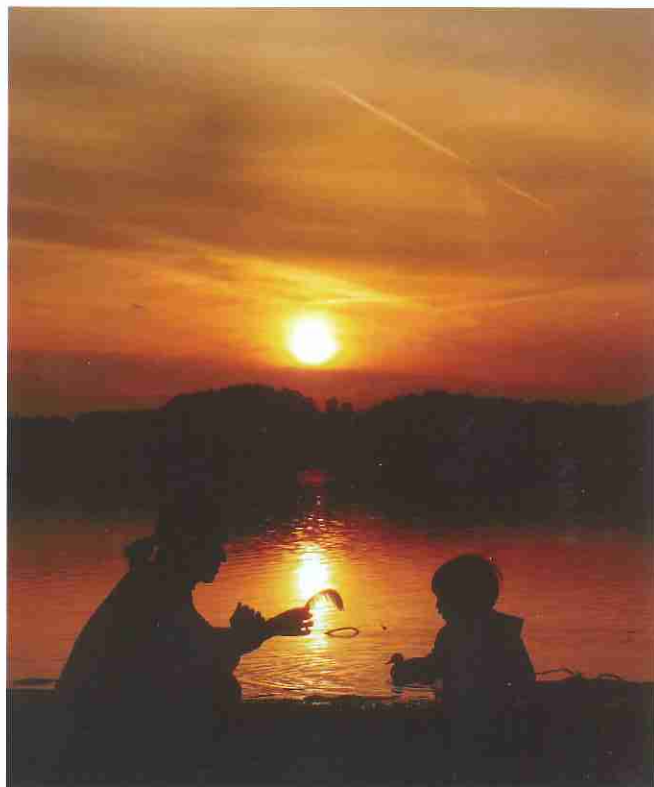
銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼
サンクチュアリ友の会
会長賞)

「落 日」

高橋 達也

【評】夕陽を背景にお母さんと子どもでしようか、二人の語らいを感じる作品です。お母さんが差し出した鳥の羽が水面の反射と重ね合わされているのも良い構図です。少し惜しいのが、お母さんの頭が背景の暗いところに同化してしまったことです。もう少し露出を明るくすると輪郭が見えたかもしれません。



銅賞 (河北新報社賞)

「Lovely (ラブリー)」

高橋 明男



【評】ハスの枯れた茎が水面に映り込んで作られたデザインをおもしろく切り取っています。ハートの形がかわいいです。周囲もごちゃごちゃしていないすっきりしたところだったのも良いです。もし、朝焼けや夕焼けのピンク色でねらっていたらもっとLovelyな作品に仕上がったかもしれませんね。

銅賞 (読売新聞東北総局長賞)

「夏の夜のサンクチュアリ」

菊地 誠一



【評】北極星を中心に描かれる星の日周運動の円の軌跡が豪快にとらえられ、迫力があって良いです。空を広く取った構図が効果的でした。沼にハスの花があるようですが、手前の一部に強い光があたっているのが気になります。もう少し柔らかい光で浮かび上がらせるとより良かったでしょう。

銅賞 (朝日新聞仙台総局長賞)

「朝の輝き」

佐々木幹男

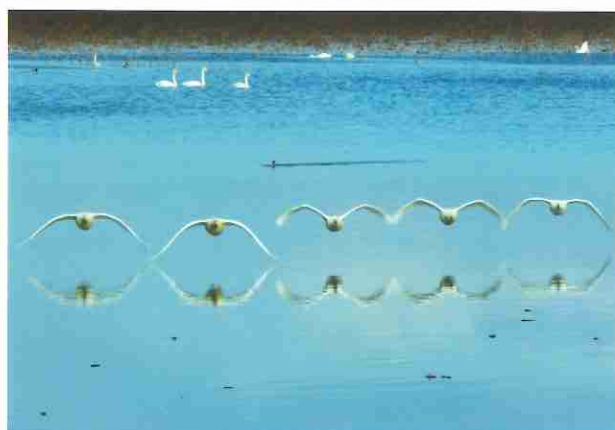


【評】一斉に飛び上がったマガンの群れの迫力と朝日の美しさを共に見せられたのが良いです。水面にもたくさんのマガンが居て、まだまだ飛翔が続くことが想像できます。画面全体がシャープで被写界深度も深く、速いシャッターでブレもなくしっかりとした描写で強い印象になりました。

銅賞 (毎日新聞仙台支局長賞)

「家族写真「撮って!」」

佐藤 宣雄



【評】5羽のハクチョウが水面スレスレを飛んで、水面の映り込みによって、上下シンメトリーのとてもおもしろい光景となりました。5羽がほぼ同じ形にシンクロしているのも絶妙なシャッターチャンスです。天気が良く青空が映り込んだので、水面の水色がとてもきれいです。

入選 「夏の歌人」

足利 義信



【評】たくさん咲くハスの中からひとときわ高い位置に咲く一輪を「歌人」に見立てたのでしょうか。眺めの良いところからきっと良い歌が生まれそうですね。青空にピンク色がとてもきれいです。ほっこり浮かぶ白い雲の配置が良くカメラポジションが良いです。

入選 「栗原の美女軍団 ワッショイ!」

原田 雅博



【評】ゼッケンを付けた9人の女性が元気いっぱいにジャンプして、最高の笑顔の瞬間をとらえています。全員とはいきませんが、ジャンプのタイミングも息が合っていて、シャッターチャンスが良く、楽しい雰囲気伝わってきました。

入選 「一休み」

佐藤 健一



【評】獲物の魚をねらっているのか、じっと何かを見つめる表情が凛々しいです。伊豆沼・内沼の特徴でもあるハスに止まっているところを狙ったのも好感です。警戒心が強い小さなカワセミをシャープでアップにとらえたのはお見事です。

入選 「朝日と共に」

青木 守



【評】朝日と飛び立つマガンにスキのシルエットを重ねたのがとても素敵な構図です。背景が鱗雲の様なおもしろい模様なのが目を引きました。少し惜しいのが感度の上げすぎなのか、かなりノイズが強く出て画質が荒れていることです。

入選 「お先に」

星 賢二

【評】マガンの飛び立ちを真横からとらえた勢いのある作品です。朝日が逆光で霧に反射し、画面全体がオレンジ色に染まったドラマチックな作品です。奥の水面にも多くのマガンがいる中、「お先に」と先発隊が飛び上がったところですね。



入選 「明日向かって」

井上のりひろ



【評】昇ったばかりの朝日を超望遠レンズでねらい、その中を通り過ぎて行くマガンをとらえたスケールの大きさを感じます。静かな画面ですが、適切な露出で太陽と空が印象的です。いくつかのマガンが黒い雲に重なってしまったのが惜しいです。

入選 「寒 靄」

高橋 知江



【評】冬の寒い日に水面から上がる朝靄に朝日が射し込み幻想的な場面です。広めの空間に小さくハクチョウのシルエットをポイントにした構図が良いです。これから一日が動き出す自然のエネルギーを感じる作品です。

入選 「塹(ネグラ)に帰る」

太田 竹一



【評】遠くの森に沈む夕陽を見つめながら、それぞれのハクチョウが寝支度をしているのでしょうか。きれいな水面の反射とハクチョウのシルエットの重ね合わせ方も良いです。一日のエンディングの切なさも感じられます。

入選 「日の出」

青木富士子



【評】太陽をバックにハクチョウが一行に編隊を組んで飛ぶシルエットをうまくとらえています。太陽も顔を少しのぞかせたくらいで控えめな感じで良いです。朝をイメージさせるにはもう少し明るめに露出を設定するとより良いと思います。